

国技建管第13号
令和5年3月17日

各地方整備局 技術調整管理官 殿
北海道開発局 技術管理企画官 殿
国土技術政策総合研究所 建設マネジメント研究官 殿

大臣官房 技術調査課
建設システム管理企画室長
(公印省略)

「令和5年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」について

施工パッケージ型積算方式標準単価表については、令和4年3月17日付け国技建管第12号により通知しているところであるが、別添のとおり「令和5年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」を策定したので通知する。

また、標準単価表については、国土技術政策総合研究所ホームページにおいて公表することを申し添える。

附則

本通知は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの期間に入札書提出期限日を設定する工事に適用する。

(別 添)

令和5年度

施工パッケージ型積算方式標準単価表

(令和5年4月1日以降に入札書提出期限日を設定している
工事から適用)

国土交通省

I.	施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方	・ ・ ・	I
II.	標準単価から積算単価への補正方法	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 1.	補正式	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 2.	標準単価から積算単価への計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	①地域及び時期の違いによる補正の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 3
	③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 4
	④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 6
	⑤支給品がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 7
	⑥無償貸付機械がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 8
III.	物価変動に伴う標準単価及び機労材構成比の改定	・ ・ ・ ・ ・	III - 1
IV.	施工パッケージ 標準単価 一覧	・ ・ ・ ・ ・	IV

I. 施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方

施工パッケージ型積算方式標準単価表（以下「単価表」という。）は、施工パッケージ単位でとりまとめています。単価表に記載されている用語の定義は以下の通りです。

■条件区分

施工パッケージ型積算基準に定められた、各施工パッケージの積算条件区分一覧における条件区分です。

■標準単価

各条件区分に対応した、東京地区（東京17区）における基準年月（令和5年度版の基準年月は令和4年4月）の施工単位当たりの単価（円）です。この標準単価を基に地区や年月等の補正を行い、積算単価を算出します。

（注）標準単価は、毎年度更新しています。更新の際には、実際の施工状況の変動や、標準単価を構成する個々の単価（機械経費単価・労務単価・材料単価・市場単価）の物価変動等を反映させて、標準単価を設定しています。

■機労材構成比

標準単価に対する機械経費(K)、労務費(R)、材料費(Z)、市場単価(S)の金額構成比率です。なお、K、R、Zは機械経費、労務費、材料費それぞれの合計金額構成比率であり、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4、Sは各代表的な規格の金額構成比率です。また、各合計金額構成比率(K、R、Z)は代表的な規格以外の金額も含むため、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4の合計がK、R、Zと一致しない場合があります。

■代表機労材規格

「機労材構成比」で代表的な規格の金額構成比率を示した機械経費、労務費、材料費、市場単価の具体的な規格名称です。ただし、コンクリートやアスファルト等の材料規格については、最も代表的な材料規格のみを示しています。

留意事項

- (1) 単価表には、補正に使用する機械経費、労務単価、材料単価は記載していません。
これらの単価等は土木請負工事工事費積算基準の定めにより下記の通りとなります。
機械経費：請負工事機械経費積算要領
労務単価：公共工事設計労務単価
材料単価：物価資料等
- (2) 土木工事標準積算基準書等に記載している「代表機労材規格一覧」は、機械経費、労務費、材料費、市場単価の代表的な組合せのみを記載している場合等があり、単価表の記載内容と一致しないことがあります。その場合は、単価表の記載内容を適用するものとします。

Ⅱ．標準単価から積算単価への補正方法

Ⅱ－１．補正式

標準単価は、東京地区(東京17区)における基準年月(令和4年4月)の施工単位当たりの単価であることから、地域及び時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。

標準単価(P)から積算単価(P')への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

P'	: 積算単価(積算地区、積算年月)
P	: 標準単価(東京地区、基準年月)
Kr	: 標準単価における全機械(K1~K3, 他)の構成比合計
K1r~K3r	: 標準単価における代表機械規格 K1~3 の構成比
K1t~K3t	: 代表機械規格 K1~3 の単価(東京地区、基準年月)
K1t'~K3t'	: 代表機械規格 K1~3 の単価(積算地区、積算年月)
Rr	: 標準単価における全労務(R1~R4, 他)の構成比合計
R1r~R4r	: 標準単価における代表労務規格 R1~4 の構成比
R1t~R4t	: 代表労務規格 R1~4 の単価(東京地区、基準年月)
R1t'~R4t'	: 代表労務規格 R1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Zr	: 標準単価における全材料(Z1~Z4, 他)の構成比合計
Z1r~Z4r	: 標準単価における代表材料規格 Z1~4 の構成比
Z1t~Z4t	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(東京地区、基準年月)
Z1t'~Z4t'	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Sr	: 標準単価における市場単価 S の構成比
St	: 市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)
St'	: 市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正(下記①)に加え、下記②~⑥の補正が必要な場合があります。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 代表材料以外の規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合
- ⑤ 支給品がある場合
- ⑥ 無償貸付機械がある場合

II - 2. 標準単価から積算単価への計算例

①地域及び時期の違いによる補正の計算例

(施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条件区分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・標準単価：50,809 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における積算単価を算出

表 1：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		2.27	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.24	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.31	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.21	416	416
R		42.22	—	—
R1	普通作業員	15.40	21,500	19,000
R2	型わく工	9.72	26,000	25,800
R3	土木一般世話役	3.40	24,700	23,700
R4	特殊作業員	0.96	24,600	21,600
Z		44.00	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.58	14,700	20,000
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	12.58	69,000	79,500
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	1.25	64.5	66.2
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.51	116	110
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

$$P'(\text{大阪 R5.4}) = 50,809$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{19,000}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{25,800}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{23,700}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{21,600}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20,000}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 & + \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} = 54,539.2439664 \dots \approx \mathbf{54,540}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：早強 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：50,809 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における積算単価を算出

表 2：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		2.27	—	—
	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	51,800	51,800
	K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (* 賃料)	747	715
	K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	416	416
R		42.22	—	—
	R1	普通作業員	21,500	19,000
	R2	型わく工	26,000	25,800
	R3	土木一般世話役	24,700	23,700
	R4	特殊作業員	24,600	21,600
Z		44.00	—	—
	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	14,700	21,600 (<u>早強 24-12-25(20)</u>)
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	69,000	79,500
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	64.5	66.2
	Z4	軽油 1.2 号 パトロール給油	116	110
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

$$P'(\text{大阪 R5.4}) = 50,809$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{19,000}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{25,800}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{23,700}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{21,600}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{21,600}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 & + \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} = 56,178.0660592 \dots \approx 56,180(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目以降切り上げ。

③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

1. 「基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)」
 「基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)」
 「排水性舗装・表層(車道・路肩部)」「透水性アスファルト舗装」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・ 条件区分：1.4m 以上 3.0m 以下、1層当り平均仕上り厚 **70mm**、密粒度 As20
 （締固め後密度 2.35t/m³）、タックコート PK-4
- ・ 標準単価：1,531.1 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における積算単価を算出

表 3：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		1.94	—	—
K1	アアスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m (*賃料)	1.30	14,800	15,000
K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.26	3,540	3,540
K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.24	3,250	3,310
R		15.12	—	—
R1	普通作業員	5.40	21,500	19,000
R2	特殊作業員	3.71	24,600	21,600
R3	運転手 (特殊)	3.65	24,200	21,800
R4	土木一般世話役	1.24	24,700	23,700
Z		82.94	—	—
Z1	密粒度アスコン(20) (平均仕上り厚 50mm)	80.11	487,500 ^(注) (50mm×9,750 円/t)	707,000^(注) (70mm×10,100 円/t)
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.56	91.5	91
Z3	軽油 1.2 号 パトロール給油	0.25	116	110
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

$$P'(\text{大阪 R5.4}) = 1,531.1$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.30}{100} \times \frac{15,000}{14,800} + \frac{0.26}{100} \times \frac{3,540}{3,540} + \frac{0.24}{100} \times \frac{3,310}{3,250} \right) \times \frac{1.94}{1.30 + 0.26 + 0.24} \right. \\
 & + \left(\frac{5.40}{100} \times \frac{19,000}{21,500} + \frac{3.71}{100} \times \frac{21,600}{24,600} + \frac{3.65}{100} \times \frac{21,800}{24,200} + \frac{1.24}{100} \times \frac{23,700}{24,700} \right) \times \frac{15.12}{5.40 + 3.71 + 3.65 + 1.24} \\
 & + \left(\frac{80.11}{100} \times \frac{707,000}{487,500} + \frac{2.56}{100} \times \frac{91}{91.5} + \frac{0.25}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{82.94}{80.11 + 2.56 + 0.25} \\
 & \left. + \frac{100 - 1.94 - 15.12 - 82.94}{100} \right\} = 2,058.7720150 \dots \approx 2,059(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(注)アスファルト混合物の材料費(m² 当り)は、**平均仕上り厚(mm) / 1,000 × 締固め後密度(t/m³) × 材料単価(円/t) × (1+ロス率)**で算出するが、締固め後密度(t/m³)に応じた標準単価を選択するため、締固め後密度が同条件となることから、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれている。

2. 「安定処理」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：安定処理
- ・ 条件区分：バックホウ、構造物基礎、1m を超え 2m 以下、
 固化材使用量 7.00t/100m² (材料ロスを含む)
- ・ 標準単価：2,237.9 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における積算単価を算出

表 4：安定処理の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		8.59	—	—
K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t (*賃料)	7.42	9,840	10,500
K2	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式・超低騒音型] 質量 0.8~1.1t (*賃料)	1.17	1,560	1,650
K3	—	—	—	—
R		57.38	—	—
R1	土木一般世話役	14.96	24,700	23,700
R2	特殊作業員	14.85	24,600	21,600
R3	運転手 (特殊)	14.60	24,200	21,800
R4	普通作業員	12.97	21,500	19,000
Z		34.03	—	—
Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1 トンパック (5.25t/100m ²)	29.08	65,100 ^(注) (5.25t/100m ² × 12,400 円/t)	83,300 ^(注) (7.00t/100m ² × 11,900 円/t)
Z2	軽油 1.2 号 バトロール給油	4.95	116	110
Z3	—	—	—	—
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

$$P'(\text{大阪 R5.4}) = 2,237.9$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{7.42}{100} \times \frac{10,500}{9,840} + \frac{1.17}{100} \times \frac{1,650}{1,560} \right) \times \frac{8.59}{7.42 + 1.17} \right. \\ & + \left(\frac{14.96}{100} \times \frac{23,700}{24,700} + \frac{14.85}{100} \times \frac{21,600}{24,600} + \frac{14.60}{100} \times \frac{21,800}{24,200} + \frac{12.97}{100} \times \frac{19,000}{21,500} \right) \\ & \times \frac{57.38}{14.96 + 14.85 + 14.60 + 12.97} \\ & + \left(\frac{29.08}{100} \times \frac{83,300}{65,100} + \frac{4.95}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{34.03}{29.08 + 4.95} \\ & \left. + \frac{100 - 8.59 - 57.38 - 34.03}{100} \right\} = 2,306.5212619 \dots \approx \mathbf{2,307}(\text{円/m}^2) \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目以降切り上げ。

(注)セメント系固化材の材料費(m² 当り)は、固化材使用量(材料ロスを含む)(t/100m²) / 100 × 材料単価(円/t) で算出するが、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれていないため、材料のロス分を含んだ実数を入力する必要がある。

④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例

(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条 件 区 分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・標 準 単 価：50,809 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 おける **労務費 20%割増** の積算単価を算出

表 5：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		2.27	—	—
	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	51,800	51,800
	K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	747	715
	K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	416	416
R		42.22	—	—
	R1	普通作業員	21,500	22,800 (19,000×1.2)
	R2	型わく工	26,000	30,960 (25,800×1.2)
	R3	土木一般世話役	24,700	28,440 (23,700×1.2)
	R4	特殊作業員	24,600	25,920 (21,600×1.2)
Z		44.00	—	—
	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	14,700	20,000
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	69,000	79,500
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	64.5	66.2
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	116	110	
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

$$P'(\text{大阪 R5.4}) = 50,809$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{22,800}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{30,960}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{28,440}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{25,920}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20,000}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 & + \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} = 58,520.9981022 \dots \approx \mathbf{58,530(\text{円/m}^3)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

⑤支給品がある場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：早強 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：50,809 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における生コンクリートが支給された場合の施工パッケージ単位当たりの【支給品費】及び【支給品費が控除された積算単価】を算出

表 6：L型擁壁の代表規格・構成比

規格		構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		2.27	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.24	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.31	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.21	416	416
R		42.22	—	—
R1	普通作業員	15.40	21,500	19,000
R2	型わく工	9.72	26,000	25,800
R3	土木一般世話役	3.40	24,700	23,700
R4	特殊作業員	0.96	24,600	21,600
Z		44.00	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.58	14,700	<u>21,600</u> (<u>早強 24-12-25(20)</u> (<u>支給品</u>))
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	12.58	69,000	79,500
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	1.25	64.5	66.2
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	0.51	116	110
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

【支給品費】

$$\text{支給品費} = 50,809 \times \frac{29.58}{100} \times \frac{21,600}{14,700} = 22,083.8726204 \dots \approx \mathbf{22,083(\text{円}/\text{m}^3)}$$

※支給品費は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

【支給品費が控除された積算単価】

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整なしの積算単価}) - (\text{端数調整なしの支給品費}) \\ &= 56,178.0660592 \dots - 22,083.8726204 \dots = 34,094.1934388 \dots \approx \mathbf{34,100(\text{円}/\text{m}^3)} \end{aligned}$$

※ 1. 端数調整なしの積算単価 (56,178.0660592 ...) は「②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例」内の計算式を参照

※ 2. 支給品費が控除された積算単価は、端数調整した場合の積算単価 (56,180 円/m³) と同じ単位止め (以降切り上げ) とする。今回の計算例では、1 円の位以降を切り上げ。

1) 端数調整した場合の積算単価が 561.8 円/m³ の場合、小数第 2 位以降を切り上げ。

2) 端数調整した場合の積算単価が 5,618 円/m³ の場合、小数第 1 位以降を切り上げ。

⑥無償貸付機械がある場合の計算例

1. 「散在塵芥収集」「堆積塵芥収集(機械処理)」「堆積塵芥収集(人力処理)」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：堆積塵芥収集（機械処理）
- ・ 条 件 区 分：運搬のみ、木片・空き缶・枯草等のかさ高物や軽量物、
DID 区間無し、運搬距離 11.5km 以下、ダンプトラック貸与
- ・ 標 準 単 価：745.70 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 におけるダンプトラックが貸与された場合の施工パッケージ単位当たりの【積算単価】及び【無償貸付機械等評価額】を算出

表 7：堆積塵芥収集（機械処理）の代表規格・構成比

規格		構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		1.27	—	—
K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.27	7,205 (損料 6,960) (夕代損耗費 245)	7,205 (損料 6,960) (夕代損耗費 245)
R		82.49	—	—
R1	運転手（一般）	82.49	20,100	18,500
Z		16.24	—	—
Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	16.24	116	110

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

【積算単価】

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 R5.4}) &= 745.70 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.27}{100} \times \frac{7,205}{7,205} \right) \times \frac{1.27}{1.27} + \left(\frac{82.49}{100} \times \frac{18,500}{20,100} \right) \times \frac{82.49}{82.49} + \left(\frac{16.24}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{16.24}{16.24} \right. \\
 &\left. + \frac{100 - 1.27 - 82.49 - 16.24}{100} \right\} = 690.4707126 \dots \approx 690.5 (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目以降切り上げ

【無償貸付機械等評価額】

無償貸付機械等評価額 = (端数調整なしの持込損料) - (端数調整なしの貸与損料)

$$= 279.2871617 \dots - 9.4703900 \dots = 269.8167716 \dots \approx 269.8 (\text{円})$$

$$\text{端数調整なしの持込損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t' + T}{K1t} \times \frac{K1t'' + T'}{K1t''' + T'} = 745.70 \times \frac{1.27}{100} \times \frac{6,960 + 245}{7,205} \times \frac{1510 + 53}{0 + 53} = 279.2871616 \dots$$

$$\text{端数調整なしの貸与損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t' + T}{K1t} = 745.70 \times \frac{1.27}{100} \times \frac{6,960 + 245}{7,205} = 9.4703900 \dots$$

※無償貸付機械等評価額は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

K1t' : K1 の供用日当り換算損料

K1t'' : K1 の時間 (日) 当り換算損料

K1t''' : K1 の時間 (日) 当り貸与損料

T : K1 に対する供用日当りの損耗品及び補修費

T' : K1 に対する時間 (日) 当りの損耗品及び補修費

2. 「付属構造物塗替」「素地調整」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：付属構造物塗替
- ・ 条 件 区 分：長油性フタル酸樹脂塗料 中塗 淡彩、
全高 4m 以上 10m 未満のポール類、貸与
- ・ 標 準 単 価：1,772.9 円 ※仮想の単価とする

→ 大阪地区の R5.4 における高所作業車が貸与された場合の施工パッケージ単位当たりの【無償貸付機械等評価額】及び【積算単価】を算出

表 8：付属構造物塗替の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R4.4)(円)	大阪(R5.4)(円)
K		1.50	—	—
	K1	高所作業車〔トラック架装・伸縮ブーム・バスケット型〕作業床高 12.0m 積載荷重 200kg 定員 2名	9,600	9,600
R		93.03	—	—
	R1	塗装工	28,300	25,600
	R2	運転手(特殊)	24,200	21,800
Z		5.47	—	—
	Z1	長油性フタル酸樹脂塗料 中塗 淡彩	492	492
	Z2	軽油 1.2 号 バトロール給油	116	110

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

【積算単価】

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 R5.4}) &= 1,772.9 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.50}{100} \times \frac{9,600}{9,600} \right) \times \frac{1.50}{1.50} + \left(\frac{71.85}{100} \times \frac{25,600}{28,300} + \frac{20.47}{100} \times \frac{21,800}{24,200} \right) \times \frac{93.03}{71.85 + 20.47} \right. \\
 &\left. + \left(\frac{3.33}{100} \times \frac{492}{492} + \frac{2.14}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{5.47}{3.33 + 2.14} + \frac{100 - 1.50 - 93.03 - 5.47}{100} \right\} \\
 &= 1,612.2034420 \dots \approx \mathbf{1,613(\text{円/m}^2)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目以降切り上げ

【無償貸付機械等評価額】

$$\begin{aligned}
 \text{無償貸付機械等評価額} &= (\text{端数調整なしの持込損料}) - (\text{端数調整なしの貸与損料}) \\
 &= 201.2059530 \dots - 26.5935000 \dots = 174.6124530 \dots \approx 174.6(\text{円})
 \end{aligned}$$

$$\text{端数調整なしの持込損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} \times \frac{K1t''}{K1t'''} = 1,772.9 \times \frac{1.50}{100} \times \frac{9,600}{9,600} \times \frac{2,580}{341} = 201.2059530 \dots$$

$$\text{端数調整なしの貸与損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} = 1,772.9 \times \frac{1.50}{100} \times \frac{9,600}{9,600} = 26.5935000 \dots$$

※無償貸付機械等評価額は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

K1t' : K1 の供用日当り換算損料

K1t'' : K1 の時間(日)当り換算損料

K1t''' : K1 の時間(日)当り貸与損料

Ⅲ. 物価変動に伴う標準単価及び機労材構成比の改定

「令和5年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」については、「令4年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」に対して物価変動の反映等を行うこととし、使用する機械経費単価、労務単価、材料単価、市場単価の基準年月を更新（令和3年4月→令和4年4月）しています。

○物価変動の反映例

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条 件 区 分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・標 準 単 価：50,809円 ※仮想の単価とする

	規格	構成比 (%)	東京(R3.4) (円)	東京(R4.4) (円)	新構成比 (%)
K		2.26	—	—	2.27
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.24	51,800	51,800	1.24
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.31	747	747	0.31
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.20	416	416	0.21
R		41.53	—	—	42.22
R1	普通作業員	15.08	21,100	21,500	15.40
R2	型わく工	9.59	25,700	26,000	9.72
R3	土木一般世話役	3.38	24,600	24,700	3.40
R4	特殊作業員	0.95	24,200	24,600	0.96
Z		44.63	—	—	44.00
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% (注)	28.92	14,400	14,700	29.58
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	13.75	75,500	69,000	12.58
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.36	70.5	64.5	1.25
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	0.52	117	116	0.51
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.58	65,500	65,000	11.51

※構成比、機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の値とする。

令和4年度標準単価

50,901円 (基準年月令和3年4月)



令和5年度標準単価

50,809円 (基準年月令和4年4月)

IV. 施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	編 章 項				備考
			施工パッケージ型積算基準				
001	掘削	001-1~4	I	1	②	土工	※1
002	土砂等運搬	002-1~24	I	1	②	土工	
003	整地	003-1	I	1	②	土工	※1
004	路体(築堤)盛土	004-1	I	1	②	土工	※1
005	路床盛土	005-1	I	1	②	土工	※1
006	押土(ルーズ)	006-1	I	1	②	土工	
007	積込(ルーズ)	007-1	I	1	②	土工	※1
008	人力積込	008-1	I	1	②	土工	
009	転石破碎	009-1	I	1	②	土工	
010	土材料	010-1	I	1	②	土工	※2
011	残土等処分	011-1	I	1	②	土工	※2
012	掘削(ICT)	012-1	I	1	③	土工(ICT)	※1
013	路体(築堤)盛土(ICT)	013-1	I	1	③	土工(ICT)	※1
014	路床盛土(ICT)	014-1	I	1	③	土工(ICT)	※1
015	床掘り	015-1~3	I	1	④	床掘り	
016	掘削補助機械搬入搬出	016-1	I	1	④	床掘り	
017	基面整正	017-1	I	1	④	床掘り	
018	舗装版破碎積込(小規模土工)	018-1	I	1	④	床掘り	
019	床掘り(ICT)	019-1	I	1	⑤	床掘り(ICT)	
020	埋戻し	020-1	I	1	⑥	埋戻し	
021	タンパ締固め	021-1	I	1	⑥	埋戻し	
022	人力運搬(積込み~運搬~取卸し)	022-1	I	1	⑦	人力運搬	
023	人力運搬(運搬~取卸し)	023-1	I	1	⑦	人力運搬	
024	安定処理	024-1	I	1	⑧	安定処理	
025	法面整形	025-1	I	2	①	法面整形	
026	法面整形(ICT)	026-1	I	2	②	法面整形(ICT)	
027	市松芝	027-1	I	2	③	芝付工	
028	吹付法面取壊し	028-1	I	2	④	吹付法面とりこわし	
029	プレキャストコンクリート板	029-1	I	2	⑤	プレキャストコンクリート板設置	
030	プレキャストコンクリート板(材料費)	030-1	I	2	⑤	プレキャストコンクリート板設置	※2
031	ジョイント処理	031-1	I	2	⑤	プレキャストコンクリート板設置	
032	ジョイント金物(材料費)	032-1	I	2	⑤	プレキャストコンクリート板設置	※2
033	人工張芝	033-1	I	2	⑥	人工張芝	
034	基礎碎石	034-1	I	2	⑦	基礎・裏込碎石	
035	裏込碎石	035-1	I	2	⑦	基礎・裏込碎石	
036	間知ブロック積	036-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
037	大型ブロック積	037-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
038	間知ブロック張	038-1~12	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
039	平ブロック張	039-1~7	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
040	連節ブロック張	040-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
041	緑化ブロック積	041-1~4	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
042	緑化ブロック(材料費)	042-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
043	天端ブロック(材料費)	043-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
044	胴込・裏込コンクリート	044-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
045	胴込・裏込材(碎石)	045-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
046	遮水シート張	046-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
047	吸出し防止材(全面)設置	047-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
048	植樹	048-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
049	現場打基礎コンクリート	049-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
050	現場打小口止コンクリート	050-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
051	現場打横帯(隔壁)コンクリート	051-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
052	現場打天端コンクリート	052-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
053	プレキャスト基礎ブロック	053-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
054	プレキャスト基礎ブロック(材料費)	054-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
055	プレキャスト小口止ブロック	055-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
056	プレキャスト小口止ブロック(材料費)	056-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
057	プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	057-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
058	プレキャスト横帯(隔壁)ブロック(材料費)	058-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
059	プレキャスト巻止ブロック	059-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	
060	プレキャスト巻止ブロック(材料費)	060-1	I	2	⑧	コンクリートブロック積(張)工	※2
061	石積(練石)(複合)	061-1	I	2	⑨	石積(張)工	
062	石張(複合)	062-1~2	I	2	⑨	石積(張)工	
063	石積(張)	063-1	I	2	⑨	石積(張)工	
064	石積(張)(材料費)	064-1	I	2	⑨	石積(張)工	※2
065	胴込・裏込コンクリート	065-1	I	2	⑨	石積(張)工	
066	裏込材(クラッシュラン)	066-1	I	2	⑨	石積(張)工	
067	平石張	067-1	I	2	⑩	平石張工	
068	平石(材料費)	068-1	I	2	⑩	平石張工	※2
069	小型擁壁	069-1~2	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	
070	重力式擁壁	070-1~7	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	
071	もたれ式擁壁	071-1~4	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	
072	逆T型擁壁	072-1~14	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	
073	L型擁壁	073-1~14	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	
074	ベレーインコンクリート(材料費)	074-1	I	2	⑪	場所打擁壁工(1)	※2
075	コンクリート(場所打擁壁)	075-1	I	2	⑫	場所打擁壁工(2)	
076	プレキャスト擁壁設置	076-1	I	2	⑬	プレキャスト擁壁	
077	補強土壁壁面材組立・設置	077-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	
078	補強土壁壁面材(材料費)	078-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	※2
079	補強材取付(帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁)	079-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	
080	補強材(材料費)(帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁)	080-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	※2
081	補強材取付(ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ))	081-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	
082	補強材(材料費)(ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ))	082-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	※2
083	まき出し・敷均し・締固め	083-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	
084	碎石投入	084-1	I	2	⑭	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁)	
085	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	085-1	I	2	⑮	補強盛土工	
086	ジオテキスタイル壁面材(材料費)	086-1	I	2	⑮	補強盛土工	※2
087	ジオテキスタイル敷設	087-1	I	2	⑮	補強盛土工	
088	まき出し・敷均し・締固め	088-1	I	2	⑮	補強盛土工	
089	ジオテキスタイル(材料費)	089-1	I	2	⑮	補強盛土工	※2
090	ヒューム管(B形管)	090-1~8	I	2	⑯	排水構築物工	
091	ボックスカルバート	091-1~10	I	2	⑯	排水構築物工	
092	暗渠排水管	092-1~2	I	2	⑯	排水構築物工	
093	フィルター材	093-1	I	2	⑯	排水構築物工	
094	管(函)渠型側溝	094-1	I	2	⑯	排水構築物工	

IV. 施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	編 章 項			備考
			施工パッケージ型積算基準			
095	プレキャスト集水柵	095-1~3	I	2	16	排水構築物工
096	プレキャスト集水柵(材料費)	096-1	I	2	16	排水構築物工 ※2
097	鉄筋コンクリート台付管	097-1	I	2	16	排水構築物工
098	プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個)	098-1	I	2	16	排水構築物工
099	プレキャストマンホール	099-1	I	2	16	排水構築物工
100	PC管	100-1~4	I	2	16	排水構築物工
101	PC管(材料費)	101-1	I	2	16	排水構築物工 ※2
102	コルゲートパイプ	102-1~2	I	2	16	排水構築物工
103	コルゲートフリューム	103-1	I	2	16	排水構築物工
104	現場打ち水路(本体)	104-1~11	I	2	17	排水構築物工(現場打ち水路(本体))
105	現場打ち集水柵・街渠柵(本体)	105-1~17	I	2	18	排水構築物工(現場打ち集水柵・街渠柵(本体))
106	サンドマット	106-1	I	2	19	サンドマット工
107	粉体噴射攪拌	107-1~3	I	2	20	粉体噴射攪拌(DJM工法)
108	粉体噴射攪拌(移設)	108-1	I	2	20	粉体噴射攪拌(DJM工法)
109	粉体噴射攪拌(軸間変更)	109-1	I	2	20	粉体噴射攪拌(DJM工法)
110	削孔(アンカー)	110-1~4	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式)
111	アンカー鋼材加工 組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー)	111-1~4	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式)
112	グラウト注入(アンカー)	112-1	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式)
113	ボーリングマシン移設(アンカー)	113-1	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式)
114	足場(アンカー)	114-1	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式)
115	アンカー(材料費)	115-1	I	2	21	アンカー工(ロータリーパーカッション式) ※2
116	コンクリートはつり	116-1	I	2	22	構築物とりこわし工
117	積込(コンクリート殻)	117-1	I	2	22	構築物とりこわし工 ※1
118	コンクリート削孔(電動ハンマドリル)	118-1	I	2	23	コンクリート削孔工
119	コンクリート削孔(さく岩機)	119-1	I	2	23	コンクリート削孔工
120	コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)	120-1~2	I	2	23	コンクリート削孔工
121	吸出し防止材設置	121-1	I	2	24	吸出し防止材設置工
122	目地板	122-1	I	2	25	目地・止水板設置工
123	止水板	123-1	I	2	25	目地・止水板設置工
124	シール材	124-1	I	2	25	目地・止水板設置工
125	シール材(材料費)	125-1	I	2	25	目地・止水板設置工 ※2
126	高欄撤去	126-1	I	2	26	旧橋撤去工
127	アスファルト舗装版破碎・積込み	127-1	I	2	26	旧橋撤去工
128	床版1次破碎・撤去	128-1	I	2	26	旧橋撤去工
129	床版1次及び2次破碎・撤去	129-1	I	2	26	旧橋撤去工
130	桁1次切断・撤去	130-1~6	I	2	26	旧橋撤去工
131	桁1次及び2次切断・撤去	131-1~6	I	2	26	旧橋撤去工
132	アスファルト塊運搬	132-1~2	I	2	26	旧橋撤去工
133	床版運搬	133-1	I	2	26	旧橋撤去工
134	じゃかご	134-1	I	2	27	かご工
135	ふとんかご	135-1	I	2	27	かご工
136	止杭打込	136-1	I	2	27	かご工
137	発泡スチロール設置	137-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
138	発泡スチロール(材料費)	138-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ※2
139	緊結金具(材料費)	139-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ※2
140	コンクリート床版	140-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
141	支柱結合アンカー(材料費)	141-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ※2
142	支柱設置	142-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
143	支柱(材料費)	143-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ※2
144	壁面材設置	144-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
145	壁面材(材料費)	145-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ※2
146	裏込砕石(軽量盛土)	146-1	I	2	28	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
147	現場取卸(鋼桁)	147-1	I	2	29	現場取卸費
148	現場取卸(PC桁)	148-1	I	2	29	現場取卸費
149	現場取卸(鋼管杭)	149-1	I	2	29	現場取卸費
150	函渠	150-1~43	I	2	30	函渠工(1)
151	コンクリート(場所打函渠)	151-1	I	2	31	函渠工(2)
152	殻運搬	152-1~9	I	2	32	殻運搬
153	コンクリート打設(深礎工)	153-1~2	I	3	1	コンクリート工(深礎工)
154	コンクリート	154-1~4	I	4	1	コンクリート工
155	モルタル練	155-1	I	4	1	コンクリート工
156	型枠	156-1	I	4	2	型枠工
157	化粧型枠	157-1	I	4	2	型枠工
158	化粧型枠(材料費)	158-1	I	4	2	型枠工 ※2
159	撤去しない埋設型枠(材料費)	159-1	I	4	2	型枠工 ※2
160	型枠(鉄筋構造)[省力化構造]	160-1	I	4	3	型枠工(省力化構造)
161	消波根固めブロック製作	161-1~18	I	5	1	消波根固めブロック工
162	消波根固めブロック横取り	162-1	I	5	1	消波根固めブロック工
163	消波根固めブロック積込み	163-1	I	5	1	消波根固めブロック工
164	消波根固めブロック荷卸	164-1	I	5	1	消波根固めブロック工
165	消波根固めブロック据付け	165-1~3	I	5	1	消波根固めブロック工
166	消波根固めブロック運搬	166-1~66	I	5	1	消波根固めブロック工
167	根固めブロック撤去	167-1~2	I	5	2	消波根固めブロック工(ブロック撤去工)
168	捨石	168-1	I	5	3	捨石工
169	捨石(材料費)	169-1	I	5	3	捨石工 ※2
170	表面均し	170-1	I	5	3	捨石工
171	除草	171-1	I	6	1	堤防除草工
172	集草	172-1	I	6	1	堤防除草工
173	梱包	173-1	I	6	1	堤防除草工
174	積込・荷卸	174-1	I	6	1	堤防除草工
175	運搬(堤防除草)	175-1~5	I	6	1	堤防除草工
176	除草,集草(人力),梱包,積込,荷卸(総合)	176-1~2	I	6	1	堤防除草工
177	除草,集草(機械),梱包,積込,荷卸(総合)	177-1	I	6	1	堤防除草工
178	抜根	178-1	I	6	3	堤防芝養生工
179	施肥	179-1	I	6	3	堤防芝養生工
180	伐木・伐竹(伐木除根)	180-1	I	6	4	伐木除根工
181	除根(伐木除根)	181-1	I	6	4	伐木除根工
182	整地(伐木除根)	182-1	I	6	4	伐木除根工
183	集積積込み(機械施工)(伐木除根)	183-1	I	6	4	伐木除根工
184	集積(人力施工)(伐木除根)	184-1	I	6	4	伐木除根工
185	積込み(人力施工)(伐木除根)	185-1	I	6	4	伐木除根工
186	運搬(伐木除根)	186-1~8	I	6	4	伐木除根工
187	伐木・伐竹(複合)	187-1	I	6	4	伐木除根工
188	散在塵芥収集	188-1~9	I	6	5	塵芥処理工

